

2019 沖縄シンポジウム

# 沖縄とともに

慰霊の日を迎えて

戦させんしまち  
みるくせややがて  
嘆くなよ臣下  
命ぞう宝

戯曲「那覇四町昔氣賀」より

2019年6月22日(土) 開場 12:30 開始 13:00 @ 弁護士会館2階クレオ 終了 16:30

第1部 沖縄戦における陸軍中野学校と護郷隊の役割  
—本土のための捨て石としての沖縄—

講師 川満 彰氏

第2部 辺野古埋立てをめぐる法律上の問題の現在  
—埋立承認撤回取消裁決と設計変更について—

講師 本多 滝夫氏

**予約不要・参加無料**

どなたでも参加いただけます、お気軽にお越しください



東京弁護士会

戦争の記憶を風化させないこと。

また、沖縄では今でも県民の反対をよそに新たな基地が造られようとしており、  
沖縄では戦後は終わっていないことを知る。

## 第1部

# 沖縄戦における陸軍中野学校と護郷隊の役割 —本土のための捨て石としての沖縄—

講師 川満 彰 氏

1960年沖縄県コザ市生まれ 現在、名護市教育委員会文化課市史編さん係嘱託。  
沖縄戦の際、陸軍中野学校出身の42名の将兵が沖縄に潜伏した。  
その役割は、沖縄の少年兵や住民を護郷隊として組織し、  
米軍に対してゲリラ戦を展開し、  
米軍の本土侵攻を1日でも遅らせるための時間かせぎをすることにあった。  
これまであまり知られなかった護郷隊を通して沖縄戦の実相に迫る。



## 第2部

# 辺野古埋立てをめぐる法律上の問題の現在 —埋立承認撤回取消裁決と設計変更について—

講師 本多 滝夫 氏

龍谷大学法学部教授(行政法)  
大浦湾側に工事難航が予想される軟弱地盤があるにもかかわらず、  
国土大臣は沖縄県のした埋立承認撤回を取り消し、  
これに乗じて防衛省は設計変更承認の申請を準備している。  
しかし、2・24県民投票で示された新基地建設反対の民意を受けて、玉城県政は  
さまざまなアクションをとっている。その意義や法律上の論点を平易に語る。



写真 沖縄県公文書館提供

写真 琉球新報提供

「海兵隊が村を占領した後、避難していた山から帰ってきた子ども。」

同時開催

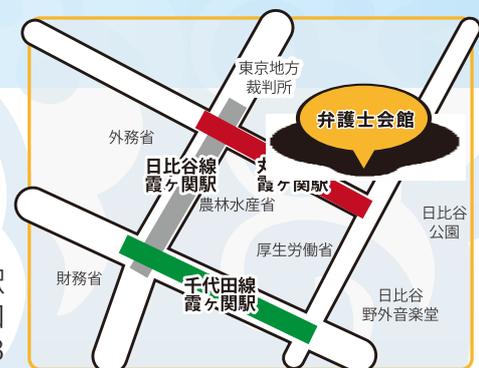
## 写真展

弁護士会館1階フロア

6/17日(月)～7/11日(木)

9:00～19:00 (6/22を除き、平日のみ)

名護市を中心とする沖縄戦時の写真、現在の辺野古埋立に  
関する写真などを展示する予定です。



問合せ先  
東京弁護士会人権課 03-3581-2205

丸ノ内線「霞ヶ関」駅  
B-1b 出口  
千代田区霞が関 1-1-3